

発表事項：「歯周病原菌 血漿抗体価検査システム」の開発

－少量の血液での歯周病検査法－

成人の罹患率が高い歯周病は、複数の嫌気性細菌が歯周組織に感染する疾患である。しかしながら、歯周病は自覚症状がない状態で進行することが多いため、重症化するまで放置されることが多い。さらに、歯科臨床の現場において、歯周病治療の効果は歯周ポケット深さの測定・歯の動揺度測定などの「歯周組織検査」によって評価されている。この検査方法は、術者の熟練度に依存して検査値が変わる可能性があること、また患者自身に疼痛などの苦痛を伴うなどの欠点がある。また、検査完了までに相当の時間を費やすことになるので、一度に大人数の検査を行う「集団検診」には不向きであり、このことは歯周病検診が医科一般検診の項目に取り入れられない理由にもなっている。

歯周病原細菌に対する血中IgG抗体価は、その感染度の「指標」として捉えられている。現在、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）（研究代表者：高柴正悟）のサポートを受け、岡山大学他、日本全国の複数の歯学部歯周病関連講座と連携したマルチセンター方式の研究を展開中（研究期間：平成19～21年度、*研究成果は随時HPで公表）。

この研究成果をもとに、今春、サンスター社（本社・大阪府高槻市）から採血用の注射器がなくても、キットの器具で少量の血液を採取するだけで歯周病菌の感染について詳しく調べられる歯周病血液検査サービス「歯周病原菌 血漿抗体価検査システム」を開始した。同サービスは、リージャー社が開発した採血セットをサンスターと特殊免疫研究所が協力して歯周病検査用に応用したもので、日本歯周病学会のワーキンググループとの連携によって実用化されたものである。

検査キットは配送、検査、検査データ管理費用などを含めて6,825円（税込み）。

*URL: http://perio6.dent.okayama-u.ac.jp/stakashi_web/kiban_a_site/in_progress.html